

大阪ガスグループの事業展開

国内エネルギーサービス事業

国内屈指の事業規模を誇るガス事業者として、都市ガスを中心に、多様なエネルギーを提供しています。

ガス事業

都市ガスの製造・供給・販売、ガス工事、ガス機器販売に至るまで、ガスをお使いいただくためのあらゆるサービスを行う大阪ガスグループのコア事業です。

電力事業

大阪ガスグループのマルチエネルギービジネスの一翼を担う第2のコア事業と位置付けています。IPP事業、発電事業、電力販売事業で構成されています。

LPガス事業・産業ガス事業

主に都市ガス供給エリア外のお客さまへ、液化石油ガス（LPガス）の卸・小売を行う事業です。また、LNG冷熱を有効活用した産業ガス事業や、低温粉碎事業なども展開しています。

広域エネルギー事業

供給エリア外の大口のお客さまや他のエネルギー事業者などにLNGを販売する事業です。

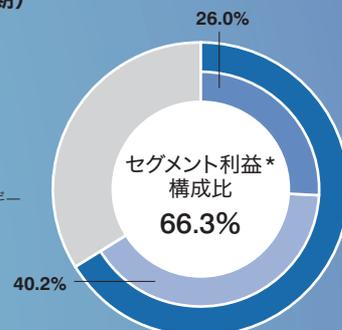
事業基盤

大阪ガスグループの強み

- 1 近畿圏における強靱な事業基盤を活かした事業展開
- 2 マルチエネルギーの効率活用に関する提案力

セグメント利益構成比 (2012年3月期)

- ガス
- LPガス・電力・その他エネルギー



* 営業利益+持分法による投資損益

LNG調達量 (2012年3月期)

798 万トン

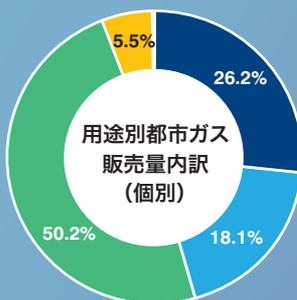
- ブルネイ
- インドネシア
- オーストラリア
- マレーシア
- カタール
- オマーン
- ロシア
- その他



ガス販売量 (2012年3月期)

8,711 百万 m³

- 家庭用
- 商業用・公用・医療用
- 工業用
- 他ガス事業者向け



海外エネルギーバリューチェーン事業

安定的でコスト競争力のあるLNG調達に向けた取り組みから開始した海外エネルギーバリューチェーン事業。長年に亘るノウハウやネットワークを駆使し、天然ガスバリューチェーンの上流から下流まで、積極的に投資しています。

資源開発

LNGの安定調達を第一義に、ガス田への投資を行っています。近年の原油価格高騰局面では、収益の安定化に貢献するなどグループの収益源として成長しています。

海外天然ガスインフラ事業

国内事業で培ったノウハウの海外での活用と安定的な収益の確保を目指して、海外での天然ガス関連事業にも積極的に取り組んでおり、米国やスペインのLNG基地、オーストラリアのパイプライン事業に出資しています。都市ガス供給事業への参入も視野に活動を広げていきます。

海外IPP事業

マルチエネルギー事業者として、海外においても電力事業を推進しています。欧州・米国での天然ガス火力発電所や、アラブ首長国連邦の発電造水事業などへの参画を果たしています。

事業基盤

セグメント利益構成比 (2012年3月期)



* 営業利益+持分法による投資損益

大阪ガスグループの強み

- ① 天然ガスを中心としたエネルギー事業に関する深い知見
- ② 長年の海外事業経験により培われたノウハウとネットワーク

上流事業への参画 **10** プロジェクト

中下流事業への参画 **9** プロジェクト

LNG船 **6** 隻 (共同保有)

- LNG基地2箇所
- IPP*114件 (うち1件はIWPP*2)
持分発電容量140万kW
- パイプライン4件 他

*1 IPP：卸供給事業用発電所

*2 IWPP：造水事業を同時に行う電力事業用発電所

拡がるビジネスチャンス

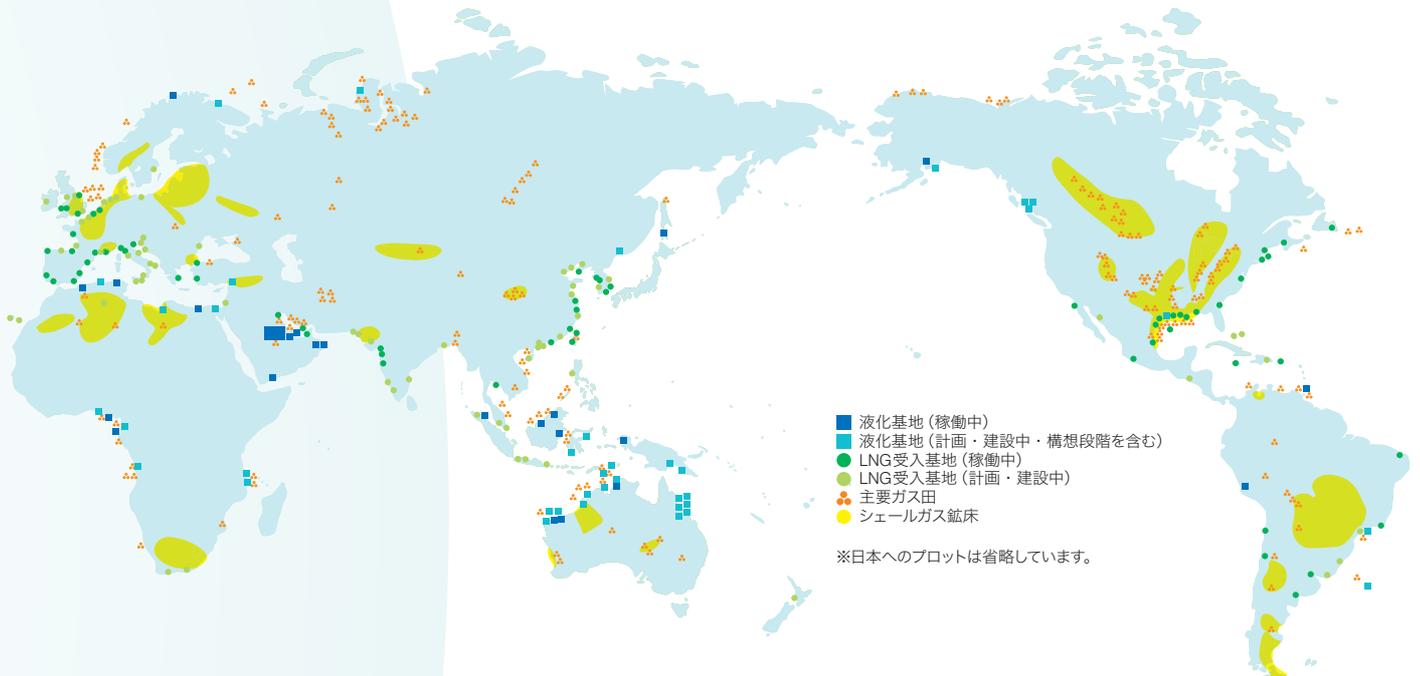
● 上流事業

中国、インドなどの急速な経済成長を背景に世界のエネルギー需要は急増しており、今後もますます増えていくと予想されています。中でも、環境性に優れた天然ガスの役割に期待が集まっています。

このようなことから、世界各地において新規のガス田開発やLNG液化プロジェクトなど、様々な天然ガス関連のプロジェクトが進められており、特に近年はシェールガスの開発が注目を集めています。

● 中下流事業

発電分野を中心として天然ガスの利用拡大が予想されています。このような天然ガスの将来的な需要拡大を見越したLNG基地やパイプラインなどのインフラ整備が世界中で進められています。日本は天然ガスの高度利用技術が発達しており、海外で都市ガスが普及すればこの分野での技術やノウハウの活用が可能となります。



- 1 EIIパイプライン事業 (オーストラリア)
- 2 イクシス・ガス田 (オーストラリア)
- 3 シェールガス開発プロジェクト (カナダ)
- 4 シュワイハットS2発電・造水プロジェクト (アラブ首長国連邦)
- 5 サグントLNG基地 (スペイン)

環境・非エネルギー事業

ガス事業の保有技術やノウハウなどの周辺領域への展開により築き上げてきた環境・非エネルギー事業。都市開発事業、情報事業、材料ソリューション事業を中心に、新たな収益事業の確立を目指しています。

都市開発事業

アーバネックスグループを中心に、大阪ガスグループが保有する不動産や新たに取得する優良不動産を活用してオフィスビル・住宅などの開発・賃貸・分譲事業、建物施設の管理・メンテナンス事業及び工事の受託を行っています。また、京都地区における新産業創出・産学公連携の拠点を目指すリサーチパーク事業を展開しています。

情報事業

大阪ガスのガス事業向けのシステム開発を主体として発足したオージス総研グループを中心に、製造業、金融業、流通業などのお客さまに向けて、情報システムの設計・コンサルティング開発及び運用・維持管理業務などの幅広いサービスを提供しています。

材料ソリューション事業

大阪ガスケミカルグループを中心に、石炭ガス製造を通じて蓄積してきた石炭化学の技術などを活用した高性能材料を、エレクトロニクスから環境まで様々な産業分野で提供するとともに、お客さまのあらゆるニーズにお応えし、価値あるご提案をし続ける材料ソリューション事業を展開しています。

サービス関連事業

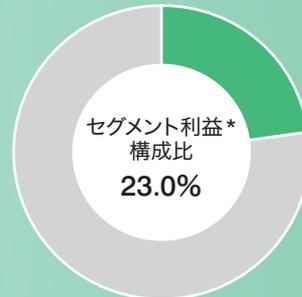
BtoB、BtoCを問わず、お客さまの様々なニーズにお応えする質の高いサービスを提供しています。豊かな暮らしとビジネスを支援する多彩な事業を展開することで、大阪ガスグループのブランド価値の向上を目指します。

事業基盤

大阪ガスグループの強み

- ① ガス事業の保有技術やノウハウなどの周辺展開力
地域に根ざした
- ② ユーティリティ企業としての信用力

セグメント利益構成比 (2012年3月期)



* 営業利益+持分法による投資損益

グループ別売上高 / 営業利益



拡がるビジネスチャンス

● 都市開発事業

住宅分野では将来の総人口減少に伴い、競争が激しくなることが予想される一方、少子化の進行により主に都心部での少人数世帯向けに対応した住宅へのニーズが高まり、今後も分譲・賃貸ともに安定した需要が見込まれています。また、オフィス分野についても、特に東日本大震災後は安全性や省エネルギー性などへの要求が高まっています。このようにニーズの変化に対応した、優良物件の供給への期待はますます大きくなっています。



● 情報事業

情報サービス産業は、経済・社会を支えるインフラを担う産業として、今日の基幹産業の一角を占めるに至っています。現在の日本企業は、東日本大震災を受けて、事業継続計画（BCP）への取り組みや、防災、環境・エネルギー、医療、交通、サプライチェーンなどの在り方そのものの変革を求められています。このような変革を実現する上で、最新の情報通信技術の活用は必要不可欠であり、情報サービス産業のさらなる発展が予想されています。



● 材料ソリューション事業

材料技術はものづくりの基本であり、かつ、特長ある製品開発に不可欠なものです。自動車、船舶海洋、航空宇宙、エレクトロニクスをはじめ多くの産業は、新規材料の出現によって飛躍的な変革、発展を遂げてきました。今後も、世界中のあらゆる産業分野において、さらなる高機能材料の開発とその製品用途への応用展開が求められるとともに、エネルギー、IT、環境など地球規模の課題の解決に向けて、材料ソリューションビジネスへの期待がますます高まっています。



グループ事業戦略の歴史

大阪ガスグループでは従来、都市ガス事業で培った技術・ノウハウやお客さまとの信頼関係を最大限に活かすべく、事業領域の拡大を図ってきました。2000年代に入り、より強みのある分野、ガス事業とのシナジーの高い分野に経営資源を重点的に投入することを目的として、成長事業に対する積極的な投資を進める一方で、不振事業やガス事業とのシナジーの低い事業からの撤退を進めてきました。今後もこのような方針に基づき収益性の高い事業の拡大を図っていきます。

